

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 3 月 1 日

事業所名 きらり中庄(重心)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	8	<ul style="list-style-type: none"> ・なにもものがなければ広さは十分かもしれないが、収納場所が少ないため散らかりやすく、バギーや車椅子などを部屋にいれるとぎゅうぎゅうになる。ちょっとした別室もないため昼寝が必要な子とそうではない子をわけることができない。 ・日によっては療育室が狭いことがあるため、パーティションで区切って使用していることもある。 ・コロナの視点を考えると距離がとれていない ・状況に合わせて環境調整している。 	クラス内の物品の整理整頓、共有スペースの使用方法等、他事業所とも協力しながら、お子さんにとって過ごしやすい環境を作っていく。
	2	職員の配置数は適切である	7	4	支援の体制としては適切であるが、勤務の体制としては余裕がない為、受け入れをお断りしなければならないこともありうる。	配置の基準は十分に満たしているため、どのように支援をすれば安全な配置となるかを考えていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	5		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	4	・清潔不潔のゾーニングなどはできている	引き続き感染対策を行いながら支援を行う。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	2	・職員の認識としては今ひとつな段階	職員1人1人が我が事と考え、意見を出し合えるような職員風土づくりを目指す。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	2	今後の課題	保護者の方から頂いた意見に対して、しっかりと向き合うことが出来るようにしていく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	4		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	10	1	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価は行っても、改善につながっているかは分からない。 ・評価後のため、改善については今後の課題・改善までは至っていない 	今年度受審を行ったため、改善策についてはまだ正式に上がってきていない状態である。出てきた課題については、職員間でも周知し検討していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11		・自己研鑽によるところが大きい	事業所内の研修について計画的に取り組む。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	10	1		
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	2		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9	1		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	11			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	10	1		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	11			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	11		・少しずつ取り組めるようになっている。	日々の確認と振り返りをしっかりと行っていく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11			
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	1		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	11			
	関係	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11		
22		母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	4	関係機関との連携があるのか把握できていない	必要な機関には情報共有を行うようにしている。また、会議等があった場合には積極的に参加していく。
23		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	10	1	医療との連携はあるが、地域との連携は把握できていない。	医療とは連絡を取る場合もあったが、その他としては相談支援員との連携のみであった。必要な児に対しては、関係機関との連携を行っていく。
24		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	11		努力している	引き続き、主治医との連絡などは行っていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10	1		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	2	今年度に関しては該当される方がいない。	該当児がいないが、他施設への移行の際にも引継ぎを行っている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	3	分からない	同施設内の児童発達支援センターとは情報交換を行っている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4	7	敷地内の園児と、行事への参加があるが、コロナ禍でもあり交流や活動までは出来ていない。今後感染のリスクが減ってきたら活動の機会を作りたい。	感染対策を行いながら必要に応じて交流を行っている。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	9	把握できていない。	今年度は参加出来ていない。案内があった際には積極的に参加していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11		お迎えのときにはどう支援したらできるようになったか、どこが難しかったかなど伝えるようにしている・画像や動画を連絡帳に貼るなどしてわかりやすく伝えるよう努めている	送迎や連絡帳(ケアコロポ)でのやりとりを通じて情報共有を行っている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	8	3		
保	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10	1		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	11			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	11			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10	1	見学週間や親子行事、茶話会などを企画・実施している。コロナ禍もあり、参加者は少ないが、今後も実施の方法などを検討していきたい。	茶話会等を計画的に開催していくことで、保護者同士の繋がりが持てるようにしていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
護者への説明責任等	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	10	1		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10	1		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	11			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9	2	コロナ禍において、積極的に地域の方を招待することはしていない。もともとそのために企画した行事の規模を縮小して継続し、感染のリスクが減ってきたら再度地域の方へもお知らせしたい	栗坂フェスティバルやレインボーランド等地域の方にも参加して頂けるよう、感染対策を取りながら実施出来るよう検討していく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	10	1	訓練の実施があるが、防犯のマニュアルが保護者に周知されているのか把握できていない。	室内にファイルは置いてあるため、保護者の方に周知出来るよう、下駄箱等に設置しておく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	11			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	11			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11		都度共有している	必要に応じて同建物内の児童発達支援センターとも共有している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	11			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。